

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	ベンジルアルコール
SDS コード	:	A4-13
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事

## 2. 危険有害性の要約

## GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高圧ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分 4	
	可燃性固体	区分に該当しない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過氧化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	区分に該当しない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分 4
		急性毒性 (経皮)	区分 4
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		分類できない	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		区分に該当しない	
皮膚腐食性/刺激性		区分に該当しない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分 2	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		区分 1	
生殖細胞変異原性		区分に該当しない	
発がん性		区分に該当しない	
生殖毒性		分類できない	

環境有害性	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (中枢神経系, 腎臓)
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (中枢神経系)
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	区分 2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示  
(GHS JP)



GHS07



GHS08

注意喚起語 (GHS JP)	: 危険
危険有害性 (GHS JP)	: 可燃性液体 (H227) 飲み込んだ場合や皮膚に接触した場合は有害 (H302+H312) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317) 強い眼刺激 (H319) 眠気又はめまいのおそれ (H336) 臓器の障害 (中枢神経系, 腎臓) (H370) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (中枢神経系) (H372) 水生生物に毒性 (H401)
注意書き (GHS JP)	
安全対策	: 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210) 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260) 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264) この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270) 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271) 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272) 環境への放出を避けること。(P273) 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)
応急措置	: 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P301+P312) 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。(P302+P352) 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340) 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。(P308+P311) 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314) 口をすすぐこと。(P330) 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P333+P313) 目の刺激が続く場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364) 火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)
保管	: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233) 施錠して保管すること。(P405)
廃棄	: 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
ベンジルアルコール	≥98.0%	C7H8O	(3)-1011	既存化学物質	100-51-6

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

### 4. 応急措置

#### 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
多量の水と石鹼で優しく洗うこと。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい  
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないこと。  
口をすすぐこと。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 爆発の危険 : 加熱により、容器が爆発するおそれがある。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に  
消火する。  
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。  
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。  
消火に使用した水が環境中に流出しないようにする。  
消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

### 6. 漏出時の措置

#### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。  
関係者以外の立ち入りを禁止する。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な  
保護具を着用し、風下で作業行わない。

#### 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。  
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材**

- 浄化方法 : 漏出は、吸収剤を使用してできるだけ素早く回収する。  
できるだけ液体漏出物は密閉容器に回収する。  
回収跡は多量の水で洗い流す。

**7. 取扱い及び保管上の注意****取扱い**

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。  
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

- 安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗いうがいをする事。  
作業所の十分な換気を確保する。

- 接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

**接触回避****保管**

- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること。  
直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。

- 安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。

- 技術的対策 : 適用法令を遵守する。

- 保管温度 : 冷暗所保管

**8. ばく露防止及び保護措置****ばく露限界値****ベンジルアルコール**

許容濃度(産衛学会) 【最大許容濃度】25mg/m3

- 設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

**保護具**

- 皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、不浸透性長靴

- 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

- 手の保護具 : 不浸透性保護手袋

- 呼吸用保護具 : 有機ガス用防毒マスク

**9. 物理的及び化学的性質**

- 物理状態 : 液体

- 外観 : 液体

- 色 : 無色透明

- 臭い : 弱い芳香臭

- pH : データなし

- 融点 : -15 ° C

- 凝固点 : データなし

- 沸点 : 205 ° C

- 引火点 : 93 ° C

- 自然発火点 : 436 ° C

- 分解温度 : データなし

- 可燃性 : データなし

蒸気圧	: 20 Pa (25°C)
相対密度	: データなし
密度	: 1.04 - 1.05 g/cm <sup>3</sup> (20°C)
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: エタノールに可溶。ジエチルエーテルに可溶。クロロホルムに可溶。 水: 3.2 % (25°C)
n-オクタノール/水分分配係数(Log Pow)	: 1.1
爆発限界 (vol %)	: 1.3 - 13 vol %
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件では安定である。吸湿性がある。空気に接触した状態では不安定である。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤や酸と激しく反応する。空気中で徐々に酸化される。種々のプラスチックを侵す。加熱すると、鉄、アルミニウムを侵す。
避けるべき条件	: 日光、熱、湿気。火花、裸火、静電気等の発火源。強酸化剤、酸、プラスチック、金属との接触。
混触危険物質	: 強酸化剤、酸、プラスチック、金属
危険有害な分解生成物	: データなし

## 11. 有害性情報

ベンジルアルコール	
急性毒性 (経口)	【分類根拠】(1)~(7) より、該当する件数の多い区分 4 とした。【根拠データ】(1) ラットの LD50: 1,200 mg/kg (JECFA FAS48 (2001))(2) ラットの LD50: 1,230 mg/kg (SIDS (2004)、環境省リスク評価第 11 巻 (2013)、PATTY (6th, 2012))(3) ラットの LD50: 1,600 mg/kg (JECFA FAS48 (2001))(4) ラットの LD50: 1,610 mg/kg (SIDS (2004)、PATTY (6th, 2012))(5) ラットの LD50: 1,660 mg/kg (環境省リスク評価第 11 巻 (2013))(6) ラットの LD50: 2,080~2,100 mg/kg (SIDS (2004)、PATTY (6th, 2012)、JECFA FAS48 (2001))(7) ラットの LD50: 3,100 mg/kg (JECFA FS48 (2001)、PATTY (6th, 2012))
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】(1) より、区分 4 とした。【根拠データ】(1) ウサギの LD50: 2,000 mg/kg (SIDS (2004)、環境省リスク評価第 11 巻 (2013))
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】GHS の定義における液体であり、ガイダンスにおける分類対象外に相当し、区分に該当しない。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】データ不足のため分類できない。なお、旧分類で採用したデータはエアロゾルによる試験との記載があることから、ミストの基準値を適用し、旧分類を変更した。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	【分類根拠】(1) の GLP 準拠データは、4.178 mg/L で死亡例がないことから、区分に該当しないとした。(1) のデータはエアロゾルによる試験との記載があることから、ミストの基準値を適用し、旧分類を変更した。【根拠データ】(1) ラットの LC50 (4 時間): > 4.178 mg/L (SIDS (2004))、(OECD TG 403、GLP 準拠)【参考データ等】(2) ラットの LC50 (8 時間): > 1,000 ppm (4 時間換算値: 8.1 mg/L) (PATTY (6th, 2012))(3) ラットの LC50 (4 時間): 8.9 mg/L (SIDS (2004))
急性毒性 (吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	【分類根拠】(1)、(2) より、区分に該当しないとした。【根拠データ】(1) OECD TG 404 に準拠したウサギを用いた皮膚刺激性試験で非刺激性 (not irritating) と報告されている (SIDS (2004))。(2) ウサギの皮膚刺激性試験の 2 報告で、皮膚一次刺激性インデックス (PII 値) は、それぞれ、1.56、1.83 と報告されている (ECETOC TR66 (1995))。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	【分類根拠】(1) より、区分 2 とした。【根拠データ】(1) OECD TG 405 に準拠したウサギを用いた眼刺激性試験で、中等度の刺激性 (moderately irritating) と報告されている (SIDS (2004))。
呼吸器感受性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	【分類根拠】(1)~(6) より、区分 1A とした。なお、新たな知見に基づき、分類結果を変更した。産衛学会 (2019)にて感受性知見が公表されたため、旧分類から皮膚感受性項

ベンジルアルコール	
	<p>目のみ見直した(2021年)。<b>【根拠データ】</b>(1)日本産業衛生学会では感作性物質皮膚第2群に分類している(産衛学会感作性物質の提案理由書(2019))。(2)接触性皮膚炎が疑われた患者5,202名に対するパッチテストでは、全患者のうち48名(0.9%)が、また、化粧品へのアレルギー反応のみを示した156名のうち2名(1.3%)が、本物質に感作されていた。(産衛学会感作性物質の提案理由書(2019))。(3)健常ボランティア19名、皮膚炎患者31名に対するオープンテストにおいて、健常者15名、患者17名に即時型反応として皮膚蕁麻疹が生じた。また、パッチテストでは、本物質による遅延型アレルギーとしてのアレルギー性接触性皮膚炎は健常者、患者ともに全員陰性であった(産衛学会感作性物質の提案理由書(2019))。(4)化粧品香料原料安全性研究所(RIFM)はヒトボランティアを対象にマキシマイゼーションテストを行った結果、全員陰性であり、ワセリン中10%の本物質による刺激性及び感作性の根拠はないとした。ヒトボランティアを対象とした皮膚線り返し感作誘導試験では、本物質の20%溶液では56名中5名、15%溶液では46名中5名、7.5%溶液では10名中3名、5%溶液では101名中2名に感作がみられ、3%溶液では107名全員に感作がみられなかった(産衛学会感作性物質の提案理由書(2019))。(5)感作及び誘発濃度3~20%(3,543 micro g/cm<sup>2</sup>~23,622 micro g/cm<sup>2</sup>)の用量を用いたヒト反復侵襲パッチテスト(HRIPT)の結果から、本物質の弱~中程度の皮膚感作性の傾向が示唆される。本物質の8,858 micro g/cm<sup>2</sup>(7.5%)から23,622 micro g/cm<sup>2</sup>(20%)の高用量では、感作された被験者数の増加がみられたとの報告がある(EU REACH CoRAP Substance Evaluation Conclusion(2020))。(6)本物質に対して様々な程度の陽性反応が示されたとの多数の症例報告がある(EU REACH CoRAP Substance Evaluation Conclusion(2020))。<b>【参考データ等】</b>(7)マウス(n=4)を用いた局所リンパ節試験(LLNA)(OECD TG 429、GLP)において、刺激指数(SI値)は1(2.5%)、0.9(5%)、0.5(10%)、0.6(25%)、1.2(50%)であったとの報告がある(GLH Report(2020)、EU REACH CoRAP(2020)、REACH登録情報(Accessed Oct. 2021))。</p>
生殖細胞変異原性	<p><b>【分類根拠】</b>(1)、(2)より、専門家判断に従い、ガイダンスにおける分類できないに相当し、区分に該当しないとした。<b>【根拠データ】</b>(1) In vivo では腹腔内投与によるマウス骨髄細胞の小核試験で陰性である(環境省リスク評価第11巻(2013)、SIDS(2004))。(2) In vitro では細菌の復帰突然変異試験で陰性である。また、マウスリンフォーマ試験及び染色体異常試験では代謝活性化系存在下で陽性だが、極めて高濃度かつ細胞毒性濃度での反応であり、in vitro 小核試験では陰性であった(NTP TR343(1989)、NTP DB(Access on May 2019)、環境省リスク評価第11巻(2013)、PATTY(6th, 2012)、SIDS(2004)、JECFA FAS48(2001)、DFGOT vol.3(2018))。<b>【参考データ等】</b>(3) DFGOT vol.3(2018)及びSIDS(2004)では、染色体異常試験陽性の結果は極めて高濃度や細胞毒性を示す濃度で得られたものであり、本物質の遺伝毒性の懸念はないと結論している(DFGOT vol.3(2018)、SIDS(2004))。</p>
発がん性	<p><b>【分類根拠】</b>国内外の分類機関による分類結果はない。利用可能なヒトを対象とした報告はない。(1)よりガイダンスの分類できないに相当し、区分に該当しないとした。<b>【根拠データ】</b>(1)ラットおよびマウスに2年間強制経口投与した発がん性試験で、両種の雌雄ともに発がん性の証拠なし(no evidence)と結論された(NTP TR343(1989))。</p>
生殖毒性	<p><b>【分類根拠】</b>(1)、(2)より、発生毒性は母動物毒性発現用量で軽微な影響がみられたのみで区分に該当しないが、性機能及び生殖能に関する情報がなく、データ不足のため分類できない。<b>【根拠データ】</b>(1)雌マウスの妊娠6~15日に強制経口投与した発生毒性試験において、母動物毒性(1/50例の死亡)がみられたが発生影響はみられていない(SIDS(2004)、PATTY(6th, 2012)、環境省リスク評価第11巻(2013))。(2)雌マウスの妊娠7~14日に強制経口投与した発生毒性試験において、母動物毒性(19/50例の死亡、チアノーゼ、振戦、衰弱、運動失調等)がみられ、児の出生時体重の減少、その後の体重増加抑制がみられた(SIDS(2004)、PATTY(6th, 2012)、環境省リスク評価第11巻(2013))。<b>【参考データ等】</b>(3)旧分類で引用された「ラットの4世代経口投与試験」は本物質ではなく安息香酸(benzoic acid)のデータである。</p>
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	<p><b>【分類根拠】</b>(1)~(3)より、区分1(中枢神経系、腎臓)、区分3(麻酔作用)とした。新たな情報源の使用により、旧分類から分類結果を変更した。<b>【根拠データ】</b>(1)本物質を34.8%含有する塗膜剥離剤を吸入した45歳男性が、意識障害を来して昏睡状態で緊急搬送され、血圧低下、進行性の代謝性アシドーシスと尿細管障害による多尿を示し、急性ベンジルアルコール中毒と診断された(伊藤ら、日救急医学会誌、vol. 29, p.254(2018))。事故原因となった剥離剤の他の成分(及び含有量)は、製品のSDSには水(50%以上)、リン酸(1~5%)、ナフタリン及び過酸化水素(いずれも1%未満)と記載されており、上記の影響は本物質によると考えられる。(2)本物質は、皮膚に塗布、又は1%溶液の皮下注射により局所麻酔に使用された経緯がある(環境省リスク評価第11</p>

ベンジルアルコール	
	巻(2013))。(3) ラットの単回経口投与試験において、抑うつ状態、興奮、昏睡がみられた。影響がみられた用量の記載はないが、LD50 値である 1,230 mg/kg 付近でみられたとすると、区分 2 に相当する (SIDS (2004))。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	【分類根拠】(1)、(2) より、ヒト小児への静脈内投与により中枢神経系への影響がみられていることから、区分 1 (中枢神経系) とした。【根拠データ】(1) 本物質は、血管内カテーテル洗浄液の保存剤として使用され、低体重児に神経系の障害及び致死を引き起こした (PATTY (6th, 2012))。(2) 本物質 0.9% を含有する液体の静脈内投与により、低出生体重児に中毒症状 (あえぎ呼吸、アシドーシス、神経機能低下等) が発現した (PATTY (6th, 2012))。【参考データ等】(3) ラットあるいはマウスに 50~800 mg/kg/day を 13 週間経口投与した結果、800 mg/kg/day (区分 2 超) で神経毒性の兆候 (よろめき歩行、努力性呼吸、嗜眠) がみられ、さらにラットでは、脳、胸腺、骨格筋、腎臓の病変等がみられた (NTP TR343 (1989)、SIDS (2004)、PATTY (6th, 2012)、環境省リスク評価第 11 巻 (2013))。(4) ラットに 200、400 mg/kg/day、マウスに 100、200 mg/kg/day を 2 年間経口投与した結果、投与による非腫瘍性病変の発生はみられなかった (NTP TR343 (1989))。
誤えん有害性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

ベンジルアルコール	
水生環境有害性 短期(急性)	魚類(ブルーギル)96 時間 LC50 = 10 mg/L(環境省リスク評価第 11 巻, 2013)であることから、区分 2 とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(BOD による分解度: 94%(既存点検, 1991))、甲殻類(オオミジンコ)の 21 日間 NOEC = 51 mg/L(環境庁生態影響試験, 1997、環境省リスク評価第 11 巻, 2013)であることから、区分に該当しないとなる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、魚類(ブルーギル)の 96 時間 LC50 = 10 mg/L(環境省リスク評価第 11 巻, 2013)であるが、急速分解性があり(BOD による分解度: 94%(既存点検, 1991))、生物蓄積性が低いと推定される(log Kow= 1.1(PHYSPROP Database, 2019))ことから、区分に該当しないとなる。以上の結果から、区分に該当しないとした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。  
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上輸送(IMDG)

- 国連番号 (IMDG) : 2810
- 正式品名 (IMDG) : TOXIC LIQUID, ORGANIC, N.O.S.
- 容器等級(IMDG) : III
- 輸送危険物分類 (IMDG) : 6.1
- 危険物ラベル (IMDG) : 6.1
- クラス(IMDG) : 6.1
- 区分(IMDG) : 6.1
- 特別規定 (IMDG) : 223、274

少量危険物(IMDG)	: 5 L
微量危険物(IMDG)	: E1
包装要件(IMDG)	: P001、LP01
IBC 包装要件(IMDG)	: IBC03
ポータブルタンク包装規定 (IMDG)	: T7
輸送特別規定-タンク(IMDG)	: TP1、TP28
積載区分 (IMDG)	: A
特性および観察結果 (IMDG)	: Toxic if swallowed, by skin contact or by inhalation.
緊急時応急措置指針番号	: 153

**航空輸送(IATA)**

国連番号 (IATA)	: 2810
正式品名 (IATA)	: Toxic liquid, organic, n.o.s.
容器等級 (IATA)	: III
輸送危険物分類 (IATA)	: 6.1
危険物ラベル (IATA)	: 6.1
クラス (IATA)	: 6.1
区分(IATA)	: 6.1
PCA 微量危険物(IATA)	: E1
特別管制区(PCA)少量危険物(IATA)	: Y642
特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA)	: 2L
PCA 包装要件(IATA)	: 655
特別管制区(PCA)最大積載量(IATA)	: 60L
CAO 包装要件(IATA)	: 663
貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA)	: 220L
特別規定(IATA)	: A3、A4、A137
ERG コード (IATA)	: 6L

**海洋汚染物質**

: 非該当

**国内規制**

海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	: 153
特別な輸送上の注意	: 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

**15. 適用法令****国内法令**

労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2)
	ベンジルアルコール
	皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・4該当物質の一覧)
	皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・4該当物質の一覧)
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)
大気汚染防止法	: 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法	: 輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	: 毒物類・毒物(危規則第2、3条危険物告示別表第1)
航空法	: 毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)

- 港則法 : その他の危険物・毒物類(毒物)(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
- 化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法) : 非該当

## 16. その他の情報

- 参考文献 : 17423 の化学商品(化学工業日報社)  
国際化学物質安全性カード(ICSC)  
独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)  
ERG2020 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
- その他の情報 : この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。